



加古川市が抱える課題解決に向けての提案を
発表する甲南大の学生ら＝同市役所

加古川市の課題、解決策提言

甲南大学(神戸市東灘区)の学生が、加古川市が抱える課題の解決策を考えて提言する「加古川『知』を結ぶプロジェクト」の成果報告会が17日、同市役所で開かれた。

同大と同市、神戸新聞社が2016年度から取り組む事業。今回は計4チームが参加した。

経営学部の望月ゼミのチームは、JR加古川駅前の活性化策をテーマにした。商業施設や市内の幼稚園でのアンケートで、子どもと楽しめるカフェが駅前には

甲南大生 駅前活性化などテーマ

しいとの声が多かったと報告。チェーン店と連携して子どもがコーヒーを注ぐ「パリスタ体験」のイベントなどを提案した。

経営学部の足立ゼミのチームは同駅前にあるギョーザ屋を生かしたまちづくりを発表。駅から十数分の好立地を生かして、居心地のいい場所としての活用を訴えた。

経営学部西村ゼミのチームは、同市の靴下メーカーと協力し「繋がる靴下」と題したプランを提案した。生産過程で過剰在庫となっ

た靴下を活用し、ゼミ生がデザインしたロゴ入りの就活生向け商品を製作。交流サイトなどでPRし、55足を売り上げた。

マネジメント創造学部の金坂ゼミは、地域密着のドッグフェス開催を企画した。愛犬との写真の展示会や、愛犬を連れての合コンなどユニークな四つのイベントを提案。地域連携の強化やリピーター確保につながるとした。

審査の結果、最優秀賞には西村ゼミのチームが選ばれた。(宮崎真彦)